

- 問1 世界の陸地の約3分の1を占める最大の面積を持ち、東側のアジア州と西側のヨーロッパ州を合わせた呼び名として適切なものを選びなさい。  
(2026年 岐阜公立入試 類似)
1. ユーラシア大陸 2. アフリカ大陸 3. 北アメリカ大陸 4. オーストラリア大陸
- 問2 東南アジアに位置するカンボジアのトンレサップ湖は、乾季の4月には面積が約3,300km<sup>2</sup>ですが、10月には約11,600km<sup>2</sup>と3倍以上に拡大します。このような湖の面積の劇的な変動や、夏から秋にかけて降水量が急増する気候特性をもたらす、季節によって風向きが変化する風を何と呼びますか。  
(2021年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 季節風 (モンスーン) 2. 偏西風 3. 貿易風 4. エルニーニョ現象
- 問3 中国の人口構成に関する統計において、1950年から2014年にかけて年少人口の割合が約半分以上に減少した一方で、老年人口の割合が約2倍に増加している傾向が見られます。このような状態を表す用語と、それに関連して中国で見直された政策の組み合わせとして正しいものはどれですか。  
(2024年 和歌山公立入試 類似)
1. 少子高齢化 — 一人っ子政策の見直し 2. 過疎化 — 西部大開発の実施 3. 人口爆発 — 一人っ子政策の導入 4. 所得格差 — 経済特区の設置
- 問4 東南アジアの国々の中で、人口は約530万人と周辺のフィリピンやベトナム、マレーシアに比べて少ないものの、経済的な豊かさを示す「1人あたりのGDP (国内総生産)」がこれらの国々を大きく上回り、最大となっている国はどこですか。また、その国の輸出入において第1位の貿易相手となっている国を答えなさい。  
(2015年 千葉県公立入試 類似)
1. 国名：シンガポール、貿易相手国：マレーシア 2. 国名：シンガポール、貿易相手国：日本 3. 国名：フィリピン、貿易相手国：日本 4. 国名：マレーシア、貿易相手国：ベトナム
- 問5 近年のマレーシアの輸出統計では、パーム油などの一次産品の輸出額が増大しているにもかかわらず、輸出全体に占めるそれらの割合は、1980年当時と比較して低下しています。このような統計上の変化が起きた背景として、最も適切な説明はどれですか。  
(2026年 青森公立入試 類似)
1. 外資を導入した工業化政策により、電気機器などの機械類の輸出がそれ以上に急増したため。 2. 森林保護のためにアブラヤシの栽培面積を制限し、輸出量を意図的に削減したため。 3. 国内の人口増加に伴い、生産されたパーム油のほとんどが国内で消費されるようになったため。 4. 天然ゴムからパーム油への転換が進まず、農業全体の生産性が著しく低下したため。
- 問6 中国の南部に位置する香港の経済的な特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。  
(2025年 鹿児島公立入試 類似)
1. 韓国、台湾、シンガポールと並んでNIES (新興工業経済地域) の一角を占め、1970年代から急速な発展を遂げた。 2. 1970年代にはまだ経済発展が遅れていたが、2000年代以降にBRICSの主要メンバーとして工業化が始まった。 3. 東南アジア諸国連合 (ASEAN) に加盟しており、東南アジアにおける工業製品の輸出拠点として成長した。 4. 日本からは地理的に極めて遠い位置にあるため、海路や空路による直接的な経済交流は1990年代まで停滞していた。
- 問7 南アジア地域の文化的な背景について述べた文として、宗教と社会の関係から考えて適切なものを選択してください。  
(2024年 愛媛公立入試 類似)
1. インドでは、人口の約8割を占めるヒンドゥー教が、多神教の性格を持ちながら社会の仕組みや伝統的な生活習慣の基盤となっている。 2. インドは世界最大の仏教徒人口を抱えており、国の政治や社会制度はすべて仏教の教えに基づいて運営されている。 3. 南アジア全域においてキリスト教が最も優勢な宗教であり、かつての植民地支配の影響によりヨーロッパと全く同じ生活様式が普及している。 4. インドではイスラム教徒が国民の約80パーセントを占めているため、豚肉を食べることが禁じられている文化が主流である。
- 問8 南アジアに位置するインドにおいて、国民の約8割が信仰しており、人々の生活習慣や社会構造に深く根ざしている宗教の名前を答えなさい。  
(2017年 大分県公立入試 類似)
1. ヒンドゥー教 2. イスラム教 3. 仏教 4. キリスト教
- 問9 インドなどの南アジアにおいて、夏に海から陸に向かって吹き、地域に大量の雨をもたらす風を何と呼びますか。その名称と特徴として最も適切な組み合わせを選びなさい。  
(2021年 福島県公立入試 類似)
1. 季節風 (モンスーン) といい、この風の影響で雨季が生じる。 2. 季節風 (モンスーン) といい、この風の影響で乾季が生じる。 3. 偏西風といい、一年中海から一定の湿った空気を運び続ける。 4. 偏西風といい、ヒマラヤ山脈から吹き下ろす乾燥した風である。
- 問10 ベトナム、タイ、インドネシア、マレーシアといった東南アジア諸国では、2000年から2018年にかけて進出する日本企業の数が増加しました。このような動きが活発化した背景として、日本企業の目的を説明したものと最も適切なものはどれか。  
(2022年 鳥取公立入試 類似)
1. 若くて豊富な労働力による生産拠点の確保や、経済成長に伴う現地市場の拡大を期待したため 2. 原材料のすべてを日本から輸入し、加工後に全量を日本へ逆輸入する体制を維持するため 3. ASEAN諸国での関税が撤廃されたため、日本国内の全工場を閉鎖して海外移転を完了させるため 4. 現地の伝統的な農業技術を導入し、日本の製造業を第1次産業へと転換するため
- 問11 ベトナムに進出する日本企業数は、2010年の約500社から2020年には約2100社へと10年間で4倍以上に急増しています。日本企業が生産拠点としてベトナムを選ぶ主な理由について、現地の社会経済状況を説明したものと最も適切なものはどれですか。  
(2024年 埼玉県公立入試 類似)
1. 韓国などの近隣諸国に比べて月額賃金が安く、かつ15歳から49歳の人口割合が高いため、豊富な労働力を確保しやすいという点。 2. 近隣諸国に比べて月額賃金が非常に高く設定されており、現地の人々の購買力が向上して製品の販売市場として魅力があるという点。 3. 急速な少子高齢化の影響で若者の労働力は不足しているが、代わりにAIやロボット技術を活用した高度な工場進出が進んでいるという点。 4. 15歳未満の年少人口の割合が周辺国の中で最も低く、将来的な労働力不足を見越して自動化を推進する企業が集まっているという点
- 問12 中国で長年実施されてきた、夫婦一組に対して子供を一人に制限する「一人っ子政策」の導入目的と、その後の変化について述べた文として適切なものはどれですか。  
(2024年 石川公立入試 類似)
1. 人口爆発による経済停滞や生活水準の低下を防ぐために導入されたが、少子高齢化の影響で廃止された。 2. 都市部への人口集中を解消し、広大な国土に人口を分散させるために導入されたが、経済成長に伴い廃止された。 3. 先進国並みの高度な教育を全児童に保証するために導入されたが、財政負担が重なったため廃止された。 4. 少数民族の人口を増やし、国内の民族構成のバランスを整えるために導入されたが、目的が達成されたため廃止された。

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 ユーラシア大陸	地球上には6つの大きな大陸がありますが、その中で最も面積が大きいのがこの大陸です。境界となるウラル山脈などを挟んで東側のアジア州と西側のヨーロッパ州に分けられますが、陸地としては地続きであるため、一つの大きな大陸として捉えられます。
問2	答え 1 季節風（モンスーン）	ユーラシア大陸の東部や南部では、大陸と海洋の暖まり方の違いにより、季節によって風向きが逆転する季節風（モンスーン）の影響を強く受けます。カンボジアを含む東南アジアでは、夏から秋にかけて海側から湿った空気を運ぶ季節風が吹くため、降水量が著しく増加する雨季となります。この大量の雨水が流れ込むことで、トンレサップ湖の面積は数倍にまで膨れ上がります。一方で、中緯度帯を一年中吹く偏西風や、数年おきに発生する海面水温の変動であるエルニーニョ現象は、この定期的な季節変化の主因ではありません。
問3	答え 1 少子高齢化 — 一人っ子政策の見直し	年少人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加する現象は「少子高齢化」と呼ばれます。中国ではかつて爆発的な人口増加を抑えるために「一人っ子政策」を導入していましたが、少子高齢化の急速な進展によって労働力不足などの弊害が予測されるようになったため、この政策は見直されることとなりました。
問4	答え 1 国名：シンガポール、貿易相手国：マレーシア	シンガポールは都市国家であり、東南アジアの主要国の中では人口規模が最も小さい部類に入りますが、中継貿易や金融業、高度な工業化によって非常に高い経済水準を実現しています。その結果、国の経済規模を人口で割った「1人あたりのGDP」は周辺国を圧倒しています。また、地理的に隣接し、歴史的にも深いつながりを持つマレーシアが最大の貿易相手国となっており、ヒトやモノの往来が極めて活発です。
問5	答え 1 外資を導入した工業化政策により、電気機器などの機械類の輸出がそれ以上に急増したため。	マレーシアは1980年代以降、外資を積極的に導入して「ルックイースト政策」などを推進し、工業化を達成しました。この結果、電気・電子機器などの機械類が輸出の大部分を占めるようになり、輸出総額が劇的に増大したため、パーム油などの一次産品は輸出額が増えていても、全体の構成比としては相対的に小さくなっています。
問6	答え 1 韓国、台湾、シンガポールと並んでNIES（新興工業経済地域）の一角を占め、1970年代から急速な発展を遂げた。	香港は1970年代から急速な工業化を成し遂げたNIESの一つです。当時は「アジアの四小龍」とも呼ばれ、中継貿易の拠点や金融センターとしての地位を確立しました。日本とも地理的に近く、空路や海路を通じて密接な経済的結びつきを持っています。
問7	答え 1 インドでは、人口の約8割を占めるヒンドゥー教が、多神教の性格を持ちながら社会の仕組みや伝統的な生活習慣の基盤となっている。	インドの文化を理解する上で、ヒンドゥー教の存在は不可欠です。全人口の約8割という圧倒的な信仰者数を背景に、祭りや冠婚葬祭、日常の食事に至るまで強い影響を与えています。なお、インドは仏教の生誕地ですが、現在の信仰割合は1パーセントに満たず、イスラム教徒は約15パーセントで少数派（マイノリティ）にあたります。
問8	答え 1 ヒンドゥー教	インドは多宗教国家ですが、人口の大多数を占めるのはヒンドゥー教です。インドで誕生した仏教は、現在では周辺の東南アジアや東アジアなどで広く信仰されていますが、インド国内での信仰者は少数にとどまっています。一方で、隣国のパキスタンやバングラデシュではイスラム教が主流となっています。
問9	答え 1 季節風（モンスーン）といい、この風の影響で雨季が生じる。	南アジアでは、季節によって吹く向きが逆転する季節風（モンスーン）の影響を強く受けます。夏は湿った海から陸に向かって風が吹き込むため、大量の降水がある雨季となります。一方、冬は陸から海に向かって乾いた風が吹くため、降水量が少なくなります。偏西風は中緯度帯で一年中西から吹く風であり、この地域に季節的な雨季をもたらす主因ではありません。
問10	答え 1 若くて豊富な労働力による生産拠点の確保や、経済成長に伴う現地市場の拡大を期待したため	多くの日本企業が東南アジアに進出する主な理由は、比較的安価で豊富な労働力を活用して生産コストを抑えることにあります。さらに、近年の急速な経済発展によって現地の人々の生活水準が向上したことで、東南アジア諸国が「製品を作る場所」としてだけでなく、製品を販売する「魅力的な消費市場」へと変化したことも大きな要因です。
問11	答え 1 韓国などの近隣諸国に比べて月額賃金が安く、かつ15歳から49歳の人口割合が高いため、豊富な労働力を確保しやすいという点。	ベトナムは近隣の韓国などと比較して、労働者の月額賃金が低く抑えられているというコスト面での優位性があります。さらに、人口構成において生産年齢の中核を担う15歳から49歳の人口割合が高い、いわゆる「人口ボーナス」の恩恵を受けている時期にあたります。このように、安価で豊富な労働力を安定して活用できることが、日本企業の進出が急増した背景にあります。
問12	答え 1 人口爆発による経済停滞や生活水準の低下を防ぐために導入されたが、少子高齢化の影響で廃止された。	1970年代後半の中国では、急激な人口増加が食料不足や教育・住宅の質の低下を招くことが深刻な課題となっていました。そこで国家主導の産児制限として「一人っ子政策」が開始されました。当初の目的であった人口抑制には一定の効果があったものの、家族構成の小規模化が進み、高齢者人口の割合が急速に高まるという新たな問題が生じたため、2015年に政策の幕を閉じました。